兵庫県東播磨地域における住民の視点からみたバス交通のあり方に関する研究

明石工業高等専門学校　専攻科　学生会員　○増本　裕幸
明石高専　都市システム工学科　正会員　石内　鉄平
明石高専　都市システム工学科　正会員　大橋　健一

１．はじめに

近年，我が国では少子化の進展と自家用車の普及に伴い，公共交通の利用者数が減少してきている．この現象は，一般的に地方で顕著に見られることが多く，その結果としてバス路線の縮小や撤退が相次ぎ，高齢者や障害者などの交通弱者において移動制約の問題が露見してきた．そこで，やがて到来する超高齢社会を見据えると自動車に頼らない交通整備が必要不可欠であり，現在，全国各地で公共交通の利用増進に向けた施策が活発に行われている．その中で，バスは住民生活に密着した重要な交通手段である．

本研究で対象とする兵庫県東播磨地域では，３社の路線バスと３団体のコミュニティバスが運行されており，特に JR 土山駅は，５つの自治体が複雑に隣接する境界に，JR 宝殿駅は２つの自治体が隣接する境界に位置している．

本研究では、平成 23 年度に JR 土山駅周辺，平成 24 年度に JR 宝殿駅周辺においてアンケート調査を実施し，バス交通サービスに関する地域差などを住民意識から把握し，バス交通のあり方を検討することを目的とするものである．

２．バス交通に関するアンケート調査

本研究ではバス交通に焦点を当てており，JR 土山駅の駅勢圏は兵庫県明石市・加古川市・神戸市西区・加古郡稲美町・加古郡播磨町の５つの自治体で，JR 宝殿駅の駅勢圏は兵庫県高砂市・加古川市の２つの自治体であり，図１の通りである．これらを複数のブロックに分割し，被験者の自宅を直接訪問してアンケート調査を実施した．これらの結果をもとにバス交通に対する住民の意識を把握する．ここで，アンケート調査の概要を表１に示す．

図１　調査地域概要図

３．バス交通に対する住民意識の実態

１）土山駅・宝殿駅周辺全体の分析結果

図２にアンケート結果であるバス交通に対するイメージを示す．駅周辺住民の全体の分析結果として，「バス停の近さ」や「時間の正確さ」などバスに対して良いイメージを持っており，バス交通の存在を評価している事がわかる．しかし，バスの利用頻度はどの交通目的においても少ないことが別の結果よ

表１　バス交通に関するアンケート調査の概要

項目	平成23年度	平成24年度
調査方法	アンケート調査（様式：A4両面）	アンケート調査（様式：A4両面）
調査地	兵庫県 JR土山駅周辺	兵庫県 JR宝殿駅周辺
調査日	平成23年11月および12月（計5回）	平成24年9月および10月，11月（計3回）
調査員	明石工業高等専門学校　学生30名	明石工業高等専門学校　学生31名
回答数	520部	539部
調査項目	1．属性	1．属性
	年齢・性別・職業・住所・居住年数	年齢・性別・職業・住所・居住年数
	所有している乗り物・最寄バス停までの距離	所有している乗り物・最寄バス停までの距離
	2．関連調査項目	2．関連調査項目
	①バスの利用頻度	①バスの利用頻度・目的
	②バスの利用目的	②バスを利用しない理由
	③バスに対する意識・イメージ	③バスに対する意識・イメージ
	④バスに対する満足度	④バスに対する満足度
	⑤バス交通に関して重要と感じること	⑤バス交通に関して重要と感じること
	⑥バス交通に対する要望	⑥バス交通に対する要望

キーワード　バス交通，交通弱者，アンケート調査，コミュニティバス
連絡先　〒674-8501　兵庫県明石市魚住町西岡 679-3 明石工業高等専門学校　ＴＥＬ078-964-6177

りわかっている．これは公共交通に対する本音と建て前が現れているが，図２の「運行本数が少ない」ことや「終発の時間帯が早い」ことも，利用減少に大きく影響しているものと考えられる．

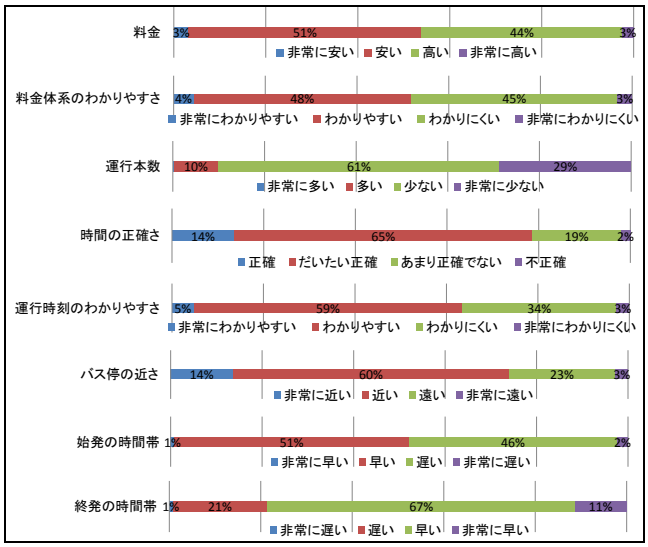

図２　バスに対するイメージ

２）土山駅周辺の地域別分析結果

図３にＪＲ土山駅周辺の地域別・目的別バスの利用頻度を示す．ＪＲ土山駅周辺のみ（平成 23 年度アンケート調査分）で地域別に集計した結果，土山駅の南東に位置する明石市二見町では，「買い物」，「通院」，「公共施設」など地域に密着した施設においてのバス利用が他の地域と比べて多い傾向にある．これは運行本数や路線に起因しているほか，二見町で運行されているコミュニティバスが深く関係しているものと思われる．コミュニティバスは民間バス路線が運行していない幹線道路以外の道路も小型バスできめ細かな運行をすることができるため，公共施設などの地域に密着した施設に行くのに効果的であり，交通弱者の移動手段として注目されている．

一方，ＪＲ土山駅の北側に位置する稲美町では，「通勤・通学」と「私用」目的のバス利用が他の地域よりも多い．これは，稲美町が土山駅から最も離れた田園地域にあり，商業地や事業所も少なく，「通勤・通学」や「私用」交通の目的地は域外の割合が高い．このような稲美町では，多くの交通が鉄道交通に依存する傾向があり，鉄道へのアクセスとしてバス利用をする人が多くなっていると考えられる．

また，これらのＪＲ土山駅周辺の利用が少ない地域と，ＪＲ宝殿駅周辺の利用が少ない地域との相関性がある結果も得られている．

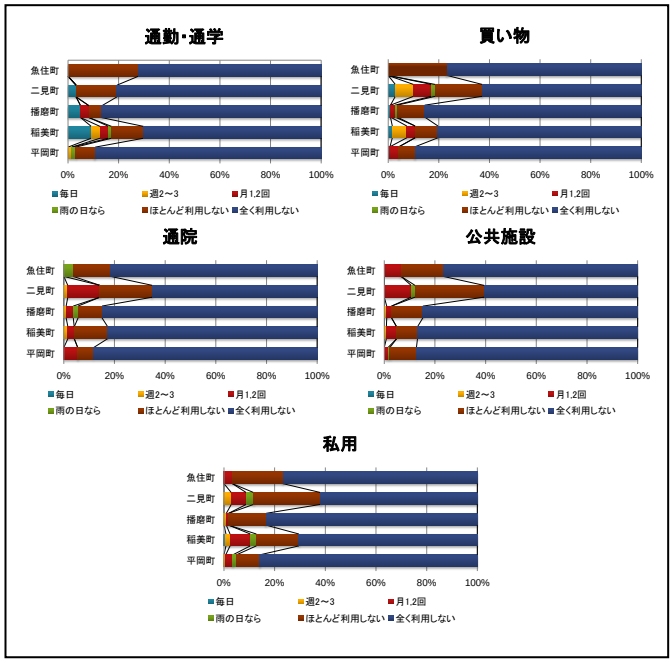

図３　ＪＲ土山駅周辺の地域別・目的別バスの利用頻度

４．まとめ

身近な交通サービスの一つであるバス交通の運営主体には，自治体や民間会社などさまざまであり，同じ駅勢圏であってもサービスの実態や住民の評価は大きく異なっている．また，異なる駅勢圏でも同じような意見を持つ地域が存在する．そして，バス交通の潜在的な需要者である住民の多くは，バスに関する十分な情報を把握できておらず，バス交通の悪循環を断ち切るためにも，これらバス交通への要望をできる限り実現していくとともに，潜在的な需要者開拓のための情報提供が重要となってくる．

本研究ではアンケート調査よりバス交通に対する住民意識の実態が把握された．本研究の結論を以下に示す．

① 全体的にみてバス交通の利用割合は少ない．
② 住民の要望に対応したサービスを行えていない．
③ 運行本数の増加や終発時間帯を遅らせることへ強い要望があり，バス交通のサービス向上を求める声が多く挙がっている．
④ 年齢層や地域等の属性の違いにより，バス交通の利用目的・利用状況・バス交通に対する住民の要望事項やイメージは異なっている．
⑤ きめ細かな運行が可能なミュニティバスは，バス交通に対するイメージと関連性が高い．

【参考文献】

深田哲平・増本裕幸：明石工業高等専門学校
平成 23 年度卒業研究，明石工業高等専門学校，2012. 3